

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 青少年健全育成の推進  
 基本事業 青少年健全育成活動の充実

事業名 **ジュニアリーダー養成事業**

[0463]

部名	教育部	事業開始年度	昭和62年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内小学 5年生 ~ 高校 3年生</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>青少年リーダーの養成を通じて、地域子ども会の活性化と青少年の健全育成を促進する。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>団体活動の楽しさや地域の子どものリーダーとしての知識や実技指導の講習会を実施する。(市内)さらに管内、道レベルでのジュニアリーダー養成への参加を促進する。</p>
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	市内小学 5年生 ~ 高校 3年生の数	人	11,699	11,696	11,349	10,656
対象指標2						
活動指標1	講習会開催回数	回	2	2	2	2
活動指標2						
成果指標1	参加者数 (市開催)	人	18	13	4	15
成果指標2	参加者数 (管内・北海道主催)	人	3	8	8	15
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	30	63	5	62
正職員人件費 (B)		千円	1,672	1,245	1,209	1,222
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		千円	1,702	1,308	1,214	1,284

費用内訳	
22年度	報償費 2千円、需用費 3千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	地域子ども会のリーダーを養成することにより自主活動を活発にし、地域の大人や子ども同士の交流と社会参加を促す事を目指しているが、少子核家族化の進展に伴い参加者が減少してきている。
--------	--	-------------	--

## 22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由・  
根拠は？

全国子ども会連合会の呼びかけによる全国的な事業であり、北海道及び札幌広域圏においても上位の事業を行っており青少年活動の意義を理解し、地域に密着した活動を推進するリーダーを養成する事業として妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

北海道及び札幌広域圏が実施する上位事業へのステップとして基礎知識の習得に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由・  
根拠は？

様々な体験プログラムを通して青少年活動を推進するためのリーダーを養成することができた。今後は段階的にリーダー養成・育成・活用の仕組みづくりを図る必要がある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

魅力のある企画作りには経費を要するが、リーダーの養成・育成・活用のあり方を研究整理し、事業計画に反映する必要がある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由・  
根拠は？

事業予算としては極限まで圧縮してきている。